



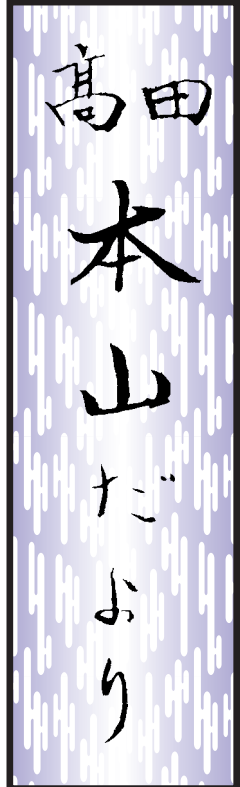
神戸別院

輪番 米澤大寛

神戸別院は、北勢における布教宣布の拠点として、正徳三年（一七一三）第十六世堯圓上人の御代に建立されました。

その後、第十八世圓遵上人の御代に本堂の再建に着手し、寛政二年（一七九〇）十一月二十八日上棟、寛政五年（一七九三）四月二日に還佛法要が営まれ、准御坊とか掛所と称せられたこともありましたが、「神戸の御坊さん」と称して門信徒の間に親しまれ、特に報恩講厳修時には近郷近在の農村から農事を休んで参詣することを楽しみ、往時は十一月二十一日から二十八日まで門前に多くの露店も並び、押すな押すな盛況だったと伝えられています。

しかし、昭和年代に入り交通手段が急速に発達し、高田本山への参詣も容易となり、神戸別院の存在意義が問われるようになって久しくなりますが、管内護持寺院四十八ヶ寺の協力を得て、近年は十二月十四日から十六日まで報恩講を厳修し、満日中に法主殿の御親修、御親教をいただく法縁と毎年一月二十六日、二十七日の婦人会主催による報恩講、追弔会厳修時にお裏方様の御親示をいただく法縁が神戸別院の二大行事となっております。



発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp

発行部数 34,000部

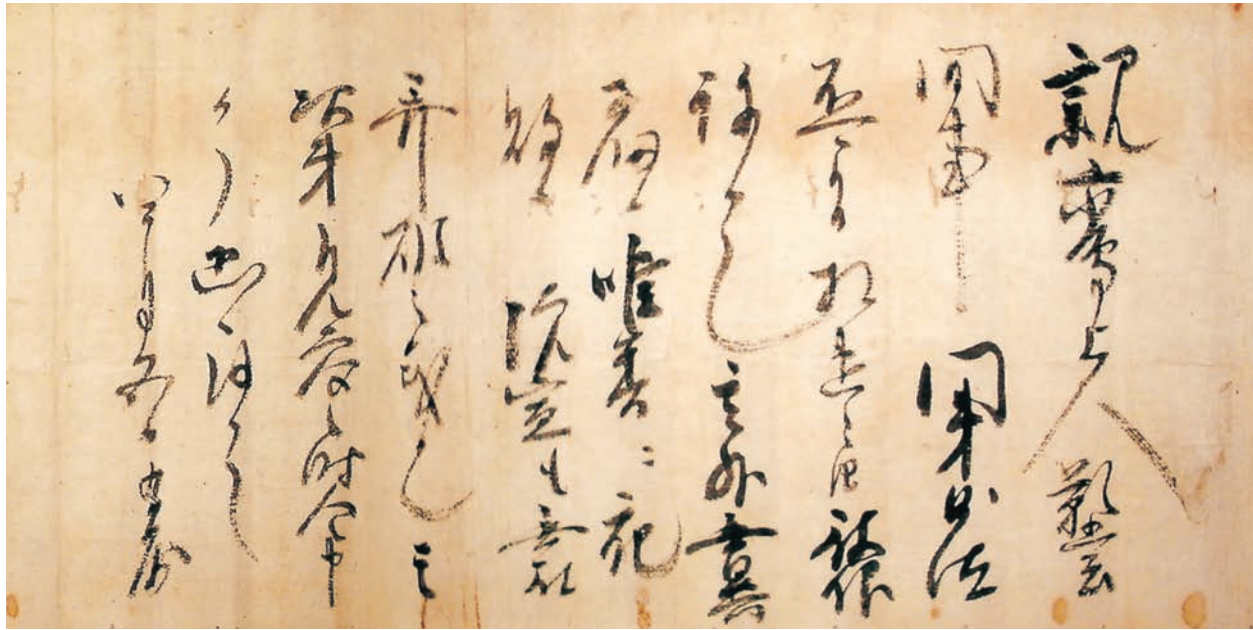


現在神戸別院では、年間十七回の諸法会と研修会を随時開催すると共に表彰制度を導入して、真宗の教えを正しく伝える努力を重ねていますが、駐車場のないことが大きな障害になっております。

神戸別院の年間維持管理費は、報恩講の懇志によって運営されていますが、長年の間に本堂を始めとして諸設備の老朽化が進み、その対応に苦慮する日々が続いており、御遠忌も目前に迫ってまいりましたので、昨年度より評議委員会、全体世話方会等を通じ、浄財負担の正常化について全体的なご支援をお願いしているところです。



六条有房書状



《読み下し文》

親鸞上人影堂の間の事、門弟の沙汰相違あるべからざるの由、仰せらるる許に候なり。そのほか異なる子細なく候。唯善に宛て賜い候。院宣も、棄破せらるるの義無く候なり。その次第は見参の時、申さしめ候了んぬ。恐々謹言。

四月五日

有房

(参照) 『官町史資料編』、平成十八年八月刊

六条有房(源 有房、一二五一—一三一九)は、六条家第二代当主で能筆として知られています。また、二条派の歌人でもあり、当時の公家社会においては、歌を詠むことは教養としてたしなむだけではなく、出世の手立てとして最も重要なものと見なされていました。有房も、正安三年(一一三〇)には、後宇多上皇の参議として政権の中枢に参画します。吉田兼好とも懇意で、その院での行状は『徒然草』にも語られています。

この書状の宛先は本願寺覚如の父、覚恵とされていますが、内容は、のちに、覚恵の異兄弟の唯善によって、京の大谷廟堂が破壊され、親鸞聖人の影像が略取されるという事件の発端にかかわるものです。

書中には覚恵より先に唯善に宛てて出された院宣の処置について、破壊すべき理由がないとの回答が認められていますので、すでに、聖人影堂の管理についての兄弟間の主導権争いが始まっていたことが読み取れます。書状の末尾には日付だけが書かれていて何年のことが判りませんが、有房が参議となったころには、すでに問題の院宣が出されたであろうので、この書状も翌年の正安四年の四月五日に書かれたものと考えられています。

これは余談ですが、このころの院宣については、興味深い逸話が残されています。鎌倉末期から南北朝期に成立した『石山寺縁起絵巻』第五巻には、東国の人が自分の領地を安堵してもらったため、京にまで上り、やつとのことで賜った院宣を、下人が近江の勢多(瀬田)の唐橋から川の中へ落としてしまい、結局、その院宣は、石山寺の観音様の夢の告げによって、宇治で捕れた鯉の腹から出てくるという話が描かれています。当時、院宣を手に入れるためには多額の礼金が必要でしたので、これを紛失した時の慌てぶりを、絵巻の作者が格好の題材として採用したものです。

新指定の重要文化財講座は、九月からは、毎月の第四木曜日(午後四時から五時まで、宗務院の二階にて開催)しています。どなたでも自由にご参加下さい。
(宝物館主幹 新光晴)

矢田了章・林智康編
歎異抄の
教学史的研究
定価4200円税込

矢田了章編
『歎異抄』に問う
—その思想と展開—
定価5000円税込

藤澤桂珠著

教行信証講讃
第四巻信文類(本)
定価8925円税込

無名会同人編

仏と人 43
救いということ(その五) 梯實
圓/難信の法 高田慈昭/念仏
法難八〇〇年 足利孝之/我聞
如是(二) 源義春/ある日の明
治天皇 南部松雄/茶話と茶話
二題 森正隆 定価4100円税込

松塚豊茂著

光を聞く
—人間・人間関係—
人間とは関係である。人間関係は苦しみのもとであるとともに喜びのもと。苦しみを喜びに転ずる—仏陀の光り—
定価1890円税込

光を聞く
—生・老・病・死—
定価2625円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 0755-337111
FAX 0755-337111
振替 0150-20549033311



平成二十二年五月
御影堂落成讃大法会

平素は、本山護持のため、ご支持・ご協力を賜り暑く御礼申し上げます。八年の歳月をかけ平成の大修理を行いました御影堂の落成讃大法会は、平成二十二年五月十三日(木)から十七日(月)までの五日間(前夜祭を含め延べ

六日間)厳修いたします。このほどポスターを作成し各寺院へお配りしました。期間中、法座はもとより記念式典、記念大会等多彩な行事を計画しております。ぜひ希少なこのご縁に檀信徒の皆様がそろってご参詣いただきますようお願い申し上げます。



第三十八回お七夜献書展

- ① 作品の受付 宗務院お七夜献書展係
 - ② 提出期限 平成二十年十二月一日(必着)
 - ③ 出品料 一点につき三百円
- 課題
幼稚園：てら

- 小一 ……きく
 - 小二 ……いのち
 - 小三 ……おがむ
 - 小四 ……高田本山
 - 小五 ……念仏高田
 - 小六 ……仏恩報謝
 - 中一 ……報恩講参詣
 - 中二 ……太鼓門修理着工
 - 中三 ……御影堂修理完成
 - 高校・一般
 - (ア) 吾誓得佛 普行此願
一切恐懼 為作大安
 - (イ) 男女貴賤ことごとく
弥陀の名号称するに
行住座臥をえらばれず
時処諸縁もさわりなし
- 出品については、宗務院教学部までお問い合わせ下さい。

アンパンマンは菩薩です

櫻田親紀

アンパンマンは菩薩です。みんなの夢ま〜もるた〜いっけ！

慈悲を行っていているということ。慈悲とは自分を犠牲に

めでたしとなるわけですが、ここで大事なことはアンパンマン

まさにアンパンマンは正真正正の菩薩さまです。もしも漢

世の中にはたくさんさんの菩薩さまがいますね。みなさんは

どうでしょう？これで菩薩さまがどんな存在であるか、

アンパンマンは絶対できません。分中心の私じゃ絶対できません。

東京部 澄泉寺住職

御本山絵所 安川如風

御本山御用達 鍵長法衣仏具店

高田本山御用達 井筒法衣店



左奥が法然上人、左端の2人が「信不退」を選んだ信空と聖覚です。

親鸞聖人は帳面を持っておられて、その前には遅れて来て蓮生坊（熊谷直実）が、これから「信不退」に座ろうとしています。

親鸞聖人のご生涯
シリーズ⑦

信行両座

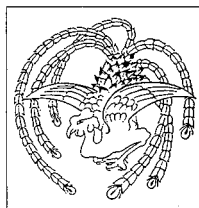
親鸞聖人が法然上人といっしょに過ごされた吉水時代（二十九歳〜三十五歳）は、法然上人の念仏教団の最盛期でした。弟子だけでも三百八十余人が参集していたと言われます。しかし、数多い弟子の中には、その教えの受け止め方が必ずしも同じ者ばかりではありませんでした。そこで親鸞聖人は、ある日こんなことを法然上人に言い出されました。

「たくさんのお弟子の中で、お念仏の教えを正しく聞いている者は何人ほどいるのか、一度知りたい者です。」

法然上人の許しを得て、親鸞聖人は翌日、大勢のお弟子が集まったところで、「浄土に生まれる最も大事な因は何か」と問われ、信不退（「信」とは信心のこと。阿弥陀仏の本願を信じる事こそ、お浄土へと生まれさせていただく身とさしていただくこと。阿弥陀仏の本願を信じて、「行」とは念仏のこと。阿弥陀仏の本願を信じて、お浄土へと生まれさせていただく身を得るためには、なお一声でも多く念仏を称えて徳を積まなければならないとする考え方）と考えるか、それぞれ意見を述べるよう言いました。

さあ大変です。三百人余りのお弟子は、どう答えてよいかわかりません。ただ阿弥陀仏の本願を信じ念仏申せばよいと思っていたのに、いきなり信じることと念仏申すことと、どちらが根本的なことかと二者択一を迫られたからです。その時大多数のお弟子は「行不退」を選んだのですが、親鸞聖人とわずか三人だけが「信不退」を選んだのであります。最後に法然上人は「信不退」を選ばれ、阿弥陀の本願を信じる事こそが浄土に生まれる最も大事な因であると明示しなされたのです。

（教学院第三部会）



仏壇・仏具
ぬし与

ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士)造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

ご和讃のお話

水沼碧水

弥陀の名願によらざれば

百千万劫すくれども

いつつのさはりはなれねば
女身をいかでか転ずべき

(高僧和讃善導讃第三首)

【意訳】

阿弥陀如来の「我が名を称えよ」との本願にひとえによらねば、どれ程とも知れない長い年月をかけても、ただ流転するのみです。

女人たちよ、あなたたちは五つの障りから離れなければ、仏とは成ることは不可能な身です。それ以外に女性の身をどのようにして変えて成仏ができませんか。(阿弥陀如来の變成男子の願により女性は男性に變身せねばできません)

善導大師の著作『観念法門』

の「女人、仏の名号を称すれば、(中略)女身を転じて男子となることを得。(中略)仏に随ひて往生し、仏の大会に入りて無生を証悟す。また一切の女人も劫 萬劫 恒河沙等の劫にも、終に女身を転ずることを、得べからず、知るべし」

と言う『大無量寿経』三十五願の解釈をされた言葉により、聖人はこのご和讃をお書きになりました。

親鸞聖人は、善導大師が言及されなかつた、「いつつのさわり」すなわち「五障」という言葉を書き加えていられます。なぜ女性の浄土往生、成仏は女性の身のままで不可能と考えられ、「變成男子の願」が必要であるとされたのか。それは、女性性は五障の身であるからだと考えられていたことを明確に示されたのです。

五障とは、女性性は(1)梵天王(2)帝釈天(両方ともに、色界の最高権力者。今風に言えば、科学者、芸術家)(3)魔王(覇権により世界を我が物にする人)(4)転輪聖王(人々より推挙され正義と人徳で世界を治める王、今風に言えば選挙で選ばれた政治家)(5)仏(真理に目覚めた人)の各々になれないということです。

ここでは五番目が問題です。仏教とは、仏と成る教えのことです。仏道とは仏と成る道を歩むことです。それが女性にはできない。困難であると考えられています。このことを乗り越えるため、男性となるしかないと考えられたのです。

お釈迦さま在世当時の教団は、男女の僧侶と在家信者で構成されてきました。女性は教団の正當な一員でした。男性に變身しなければ仏になれないということもいわれませんでした。後世の仏教教団において、女性は「五障」の身である、「變成男子」が必要であるとされたのです。

七高僧の方々に、女性の浄土往生、女人成仏の困難さを問題とされなかつた方は少なかったと思います。十方衆生、すなわち総ての人々の浄土往生による真の救いのお誓いである阿弥陀如来の本願の実現を願われない方はありませんでしたから、「浄土往生を総ての女性にも可能にしたい」と考えられて、様々に御計らいにもなられています。

教えの上だけではなく、その時代社会に生きる女性たちの不自由さ、行動が制約され、自分の意志を成就させていくことの困難な在り様を見ておられたでしょうし、女性が「劣った人間」として、蔑視される様も知られていたでしょう。仏道を女性が男性と共に歩めず、ある場合は「女人禁制」とされ「女性は穢れている」という理由で排除されていたことをしっかりと御覧になっていたはずで、そのことを改めるため、女性を差別する心を先ず問題とされたのでしよう。「差別される女性がいなくなる」のだから、「差別される女性」を男性に変えればよいと、されたのでしよう。

差別は心に偏見として染み付くものです。女性を差別して、仏道を歩むことを困難にできたと気づくことは大事なことです。女性差別の問題を解決するには、もうひとつ大事なことがあります。現実に今生きてい

る女性たちの、実社会、実生活においての具体的な女性であるための困難さです。現代の社会は、親鸞聖人が生きておられた頃と比べれば格段の違いがあります。女性が男性と等しい法律上の権利を持つようになり、教育の機会も平等になり、様々な領域で働き、社会進出も、当然になりました。が、まだまだ困難なことが女性には多いことも事実です。例えば女性が僧侶となるには困難があります。高田派でも男性と比べて、その数の少なさは端的にそのことを現しています。

この問題に取り組むには、教団の制度、仕組みを変え女性が仏道を歩みやすくすることが大事です。女性が住職になることができたこと、女性の僧侶が本山御影堂で朝のお説教をして、お七夜さんなどに出勤し、法話し、僧侶としての勤めに励むことができるようになったことも大事なことに思います。教団の中で女性たちが男性と共に仏道を歩める、そのほうが、「女性を男性の身に変える」ことより自然で望ましいことではないでしょうか。老若男女共に仏道を歩むことを願われ、総ての人に開かれた教えを求められた、親鸞聖人は、困難が軽減され仏道を多くの女性が女性の身のままで歩む姿を御覧になられたらどんなにか喜ばれるかと思えます。

津市 玉保院衆徒

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)

本山会席



人気商品 高田本山流 精進料理

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせご注文は

※自宅までマイクロバスで送迎(5名より14名様まで)

高田青少年会館 TEL.059-232-6079



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株式会社

(石に御用の方は) イシニゴヨ
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

声明公演
 真宗高田派～伝承500年の響き～
 親鸞聖人を讃歎する集い

日時 平成21年4月2日(木) 2時開演
 会場 国立劇場大劇場



納骨堂法会

11月3日、4日



高田本山「佛大涅槃図」に
 写経を奉納しませんか？

現在、本山所蔵の佛大涅槃図は三重県表具内装組合連合会の協力のもと修復が進んでおりますが、この度軸部分に多くの法名が収蔵されていたことが発見されました。そこで今回の修復に併せて、皆様方から新たに写経を募集し奉納することとなりました。

応募方法

- ・申込書(コピー可)でFAXまたは郵送にてご応募下さい。
- ・応募は先着500枚とさせていただきます。応募締切は11月20日です。
- ・写経冥加金は3,000円以上です。
- ・入金方法は、写経用紙一式を郵送する際に振り込み用紙を同封いたします。
- ・詳しくは、下記 本山広報課 高藤まで。

真宗高田本山 専修寺

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
 TEL 059-236-5701 FAX 059-236-5702
 受付時間 9:00～15:00
 URL : <http://www.senjuji.or.jp/>



一身田寺内町まつり

十一月九日(日) 小雨決行
 午前九時～午後四時

「一身田寺内町まつり」は、本山境内や寺内町、本山駐車場などを会場に、まさに町をあげてのお祭りです。本山唐門前に特設ステージが作られ、コンサートや演奏会が行われ、唐人踊りや中野獅子舞など、津市の伝統芸能も特別参加します。とてもこの頁で紹介しきれないほどたくさん催しが、一身田の町のあちこちで行なわれます。

清掃奉仕ありがとうございました
 平成二十年
 六月 光明寺 海念寺
 七月 常寶寺 西林寺 蓮性寺
 西念寺 光蓮寺 法林寺

京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具 **小堀**

本店/京都市下京区丸鳥通正面上る ☎(075)341-4121(代)
 東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
 お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
 石匠位認定店
 全国優良石材店、認定店

創業100余年

ISHISEN STONES 株式会社 **ストーンズ 石仙**

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

マイコ・コイイン

これからの本山諸法会

◆ 讚仏会

お彼岸のお参りを讚仏会といひます。仏さまのお徳を讃えて、ご先祖の恩に感謝して、法縁を喜ぶ法会という意味です。

朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十三日には法主殿の御親教がごさいます。

◆ 資堂講法会

正式には永代資堂講法会と言ひます。資堂講は、普く有縁の方々が入り得る講として設けられ、教化の一端も担っています。

◆ 納骨堂法会

親鸞聖人のお徳を偲ぶとともに、私たちの大切な人も聖人の御廟のそばにおいてあげたいという願ひから、本山にご遺骨(分骨)を納める本山納骨の習慣が出来ました。その後、昭和三十八年に個人の納骨壇にご遺骨を納める納骨堂が造られました。本堂でのお勤めに先立って、法主殿または法嗣殿とともに多くの僧侶が山内を行列で進み、御廟と新納骨堂・第二納骨堂を参拝されます。

◆ 秋法会

十一月五日〜十日 春の千部法会と同じく、進納所で講千部に加わりたい方をご招待して勤まる法会です。

本山内の賜春館(明治天皇が宿泊された建物)で法主殿のご対顔をあおいだ後、本堂にて参詣します。

これからの本山行事

◆ 第四十七回檀信徒研修会

十月二十八日 午前九時受付 「和讃に学ぶ」をテーマに高田派お同行の研修会です。午前中は愛知県岡崎市浄泉寺住職戸田信行師の法話やビデオ鑑賞、午後は班別の分散会で意見の交換や、質疑応答を行います。参加申込は宗務院教学にて受付けます。

◆ 教学院研究発表大会

十月三十一日 午前十時開会 高田派の研究機関、教学院の各部会ではそれぞれのテーマを持って研究を行っています。当日はそれぞれの部会からの代表5名に、応募された一般の僧侶が、二十分の持ち時間で行ってきた研究について発表を行います。また午後には講師を招いて特別講演も行われます。聴講は無料です。

◆ 第二十八回 坊守婦人会合同研修会

十一月十一日・十二日 別院や一般寺院にある婦人会の集まりが高田派婦人連合会です。一泊二日で研修会を開き、法式作法や法話講演を聴聞したり、座談会でコミュニケーションを深めたりします。研修会では、初日に小旅行をすることが多く、今年も計画中です。参加ご希望の方は宗務院教学課へ申し込んでください。

編集後記

今年の夏も、暑い日が続きました。毎年、前年より暑いような気がするのは、去年の暑さを一年間で忘れてしまふからでしょうか。それとも、肌で感じるくらいに、本当に地球の温暖化が進んでいるからでしょうか。このような暑い日に夕立があると、一気に気温が下がって快適な夜を過ごすことができます。



私は本山から片道三十キロ程離れた四日市市に住んでいます。夏の夕方、本山中で激しい雨が降っていても、自宅へ帰ると全く地面が濡れていないことがよくあります。また、自宅で明け方に目が覚めるほどの激しい雷雨があっても、本山へ行くと全く雨が降っていないこともあります。夏の雨は馬の背を分けるといひますから、当たり前かもしれない。しかし激しい雷鳴と叩き付けるような雨に怯えている時に、隣の町では全く雨も雷もないことを想像できるでしょうか。おそろる窓から外を見ても、一面真つ黒い雲に覆われて、どこまでも続いているようにしか見えません。百聞は一見にしかず、などといひますが、私の一見はあまりたよりにならないみたいです。

(栗)



寺院名